

海外におけるCM方式の活用状況

	公共工事		民間工事
	基本的な発注方式	CM方式の普及状況	CM方式の普及状況
アメリカ ※1	<ul style="list-style-type: none"> 設計と施工を分離し、施工について一括発注する方式が主流である。 アットリスク型CM方式、設計施工一括発注方式が漸次的に増加しつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1970年代初頭に、連邦の一般調達庁(GSA)により初めて採用された。 現在、ピュアCM方式とアットリスク型CM方式の2つが主流となっている。 基本的にCMRは、設計段階から発注者の代行者としてプロジェクトに関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間工事では、1960年代より活用されており、一般的に広く普及している。 工事の発注方式として、主要な方式の一つである。
イギリス ※2	<ul style="list-style-type: none"> 設計と施工を分離し、施工について一括発注する方式が主流である。 	<ul style="list-style-type: none"> 1980年代半ばからCM方式は活用されており、活用の割合は2001年時点で全工事件数の0.4%程度である。 英国ではピュアCM方式が多い。 CM方式は通常建築工事で採用され、価格200万ポンド以上の大規模な工事が中心となる。 工期短縮や、変更への柔軟性を高めるため、CMRは設計段階等の早い段階から関わる場合が主流である。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に広く普及している。
フランス ※2	<ul style="list-style-type: none"> 設計と施工を分離し、施工について分離発注する方式(公共発注者が建築家、複数の建設会社、検査官等と直接に契約を結ぶ)が原則である。 	<ul style="list-style-type: none"> CM方式は採用されていない。 フランスの建設システムにおいては、伝統的に建築家が広範なマネジメント業務を実施しており、この機能の中にCMの業務が内包されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間工事ではCM方式が活用されることがある。
ドイツ ※2	<ul style="list-style-type: none"> 設計と施工を分離し、施工について分離発注する方式(国、地方公共団体を問わない)が原則である。 	<ul style="list-style-type: none"> CM方式や設計施工一括発注等は採用されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> CM方式は一部の民間工事で活用されている。

出典：※1:変わる建設市場と建設産業について考える(財団法人建設経済研究所 常務理事 鈴木 一著)

※2:欧州におけるCM発注方式調査報告書(欧州におけるCM発注方式調査団)

※3:関係者へのヒアリングによる